

宮沢和史 × 夏川りみ

『あしたの子守唄』 Special Interview



夏川りみが、11月9日にシングル「あしたの子守唄」を発売した。CDシングルをリリースするのは、2011年9月発売の「あすという日が」以来5年ぶり。表題曲をはじめ収録される全3曲を2月に歌手活動を無期限休止した元THE BOOMのボーカル・宮沢和史が書き下ろした。

夏川が宮沢とコラボレーションするのは、2004年7月発売のシングル「愛よ愛よ」以来12年ぶりだが、そもそもの出会いは、夏川がアルバム「ていだ～太陽・風ぬ想い～」の中で、THE BOOMの「島唄」をカバーした事だという。このカバーを聴いた宮沢が自身のラジオ番組にゲストとして招いたことから、交流が始まった。当時、夏川の持つ母性に魅かれた宮沢が「日々に疲れた人たちが、彼女の歌声で癒されてほしい」との願いを込めて提供したのがこの「愛よ愛よ」だ。この曲の歌詞には「がんばらないで」というフレーズがあるが、「あまり頑張りすぎないで」というメッセージがあふれており、夏川自身にとっても、とても大切な1曲だという。この曲で、夏川は日本レコード大賞「最優秀歌唱賞」を受賞した。

宮沢は歌手活動休止後、沖縄民謡の保存に向け、歌手約250人と共に269曲を録音し、“音の教科書”として沖縄県内の図書館や海外県人会に寄贈する活動を続けている。その活動を見ていた夏川が、宮沢に楽曲提供を依頼。快諾した宮沢は「今まで考えたことがなかったことを考えるいい機会になり、とても新鮮な気持ちで楽曲制作に集中できた」と振り返る。

表題曲「あしたの子守唄」は、熊本地震がきっかけで制作された楽曲。冒頭の「野良犬でさえ頭（こうべ）を垂れて 今宵の月に気づいていない」という歌詞について宮沢は「月はいつでもきれいにそこにあるのに、うつむいてしまっていると、その美しさに気づけない。今、そういう時代になっているので、りみの歌を聴いた人が少しでも頭を上に向けてくれるようになればいいなという願いを託した」と説明する。

表題曲の候補として挙がって来た 3 曲はどれもそれぞれ素晴らしく、すべてシングルに収録されることになったのだそう。カップリング曲「夏花の唄（ナツパナのウタ）」「月の蛍」は、夏川の地元・石垣島の原風景に思いを馳せて宮沢が書き下ろした曲だが、「聴く人それぞれの心にある、故郷の情景や郷愁を大切にしてほしい」との思いが込められているという。

夏川は「宮沢さんがマイクを置いてから初めて書き下ろしてくださった曲なので、聴いてくださる方に手渡しするような気持ちで、しっかりと伝えていきたいと思っています。一人でも多くの人たちに届くように、そして一人でも多くの人たちを元気づけられるように、大切に歌い続けていきたい曲です」と新曲について熱く締めくくった。

(取材・文：長井英治)



2016年11月9日発売

夏川りみ

ニューシングル

『あしたの子守唄』

(VICL-37218 ¥1204+tax)

♪ 昨日よりも今日 今日よりも明日 ♪

「涙そうそう」「童神」に続く、新たなスタンダード曲が完成
宮沢和史（元 THE BOOM） 全3曲書き下ろし！

【収録曲】

M-1 「あしたの子守唄」

(作詞・作曲：宮沢和史 編曲：京田誠一)

M-2 「夏花の唄」

(作詞・作曲：宮沢和史 編曲：京田誠一)

M-3 「月の蛍」

(作詞・作曲：宮沢和史 編曲：宮沢和史・京田誠一)

※「あしたの子守唄」「夏花の唄」オリジナル・カラオケ収録